

地球の
未来を
担う



ARBIZ

Co CREATING THE FUTURE

再生資源で未来をつなぐ

CSR REPORT 2025

株式会社アビツ CSR報告書 2025

Purpose (パーパス：目的)

再生資源で未来をつなぐ ～ Co-Creating the future ～



TOP MESSAGE

株式会社アビツ
代表取締役

瀬田 大

1966年名古屋市生まれ。2004年6月株式会社ユー・エス・エス取締役に就任、2019年6月同社代表取締役社長兼COO就任。2008年6月より株式会社アビツ代表取締役を兼務。



CSR REPORT 2025

ARBIZ 社名の由来

Art技術、**w**aza + **R**ecycleリサイクル + **BIZ**・・・Businessビジネス

3つのワードの頭文字で構成されています。Aから始まりZで終わり、自己完結にリサイクルの技術を職人芸レベルまで高めることによって、リサイクルビジネスのエース (Ace) を目指す願いが込められています。

編集方針

気候変動をはじめとする環境問題が深刻化する中、循環型社会・サーキュラーエコノミーの実現は社会全体で取り組むべき課題となっています。アビツが様々な手法で生み出す再生資源に対しても、これまで以上に社会からのニーズが高まっており、次世代へとつながる資源循環には欠かせない材料となっています。

主にこの1年のアビツの取り組みをステークホルダーの皆さまにご紹介するのがこのCSR報告書です。本報告書が皆さまとの対話を生み、社会課題の解決につながれば幸いです。

CONTENTS

経営理念 / ARBIZ 社名の由来 / 編集方針 / 目次	1	2024年総括 / 常務×取締役 対談	11
トップメッセージ	2	今年度トピックス	13
シン経営理念プロジェクト	3	安全衛生	15
検討委員会	4	人的資本	16
会社概要	5	環境への取り組み	17
出資企業・グループ企業	6	社会貢献	19
沿革 / 事業領域	7	数字で見るアビツ	23
アビツの特徴	9	2024年度の世の中の出来事	25

経営理念ならびにロゴデザインの刷新

創業20年を迎える頃の社内提案をきっかけに、経営理念を見直すことになりました。これを受けた2025年4月、社内の有志による「シン・経営理念プロジェクト」チームが立ち上がり、半年間のワークショップから練られた結果をもとに、10月1日に新たな経営理念を発表しました。

ビジネスの上でまず必要となるのが、明確なビジョンです。これが無ければ、皆が向かうべき方向や堅持すべき姿勢が定まらず、せっかく決めた取り組みもその場しのぎになってしまうかもしれません。新たな経営理念には、事業のパーパス (目的) として「再生資源で未来を繋ぐ ～Co-Creating the future～」を定め、循環型社会・サーキュラーエコノミーの実現に向けてのアビツの立ち位置をさらに具体化しました。

私はアビツの事業を行う上で最も必要なものが「安全と効率の両立」と考えており、予めからこの重要性を社員に示してきました。経営理念におけるビジョン (あるべき姿) ならびにバリュー (社員の価値観) にも、命題でもある「安全と効率の両立」を取り入れることができました。

皆の思いを受けてうまれた新たな経営理念を、この先社員はもちろん、お客様にも親しんでいただけるよう、様々な場面で表していきます。

サーキュラーエコノミーの推進に向けたこの1年の投資

アビツでは、循環型社会やサーキュラーエコノミーの実現に向けて取り組んでいますが、将来的にニーズが高まる新たな分野への挑戦も続けています。

まずアルミの水平リサイクルについては、まだ先行きの見通しに不確定な要素もありますが、最新の技術、設備を導入し、出荷製品の品質を高めるべく先行投資しています。さらに2000年代

以降に設置件数が大幅に増加した太陽光パネルについては、機器のライフサイクルが終わる2030年代の大量廃棄を見据え、リサイクルのスキームを確立しつつあります。これらの新規事業は強力なパートナーと共に、未来志向のプロジェクトを進めています。

同様に社会ニーズが高い商材として、IT機器のリサイクルにも取り組んでいます。懸念される情報漏えいの対策として、記憶媒体を完全に破壊し資源化するリサイクルに加え、個人情報データを消去した上で機器を再販する、より環境負荷の低いリユースという選択肢も含めて事業の拡大を進めています。

新分野への挑戦について、これから市場からどのように受け入れられるかを見極めながら、本格的に活動を進めていくのが楽しみです。

今アビツに求められていること

環境問題が深刻化する中、USSグループ全体に対してもカーボンニュートラルや気候変動への対応が求められています。社会全体でサーキュラーエコノミーの確立が進む中で、アビツの事業はより社会貢献の色合いが濃厚となっていでしょう。株主など市場は環境への配慮を重視するのはもちろんですが、昨今の景気低迷の影響もあり、これまで以上に企業の業績やガバナンスへの対応が注目されています。

私がアビツの代表取締役として就任してから17年ほどになります。USSでは公正で透明性の高いサービスを提供することを掲げていますが、この姿勢はアビツにも受け継がれています。アビツはこれまで信頼される企業づくりを目指し、お客様や社員に支えられながら成長してきましたが、まだまだやるべきことはたくさんあります。社内の配置や物流、そして設備の自動化などを検討し、社員がもっと余裕をもって仕事に取り組むことができる環境を整え、安全と効率の両立を実現できる職場のあるべき姿に近づきたいと思っています。

シン経営理念

Purpose (パーパス: 目的)

再生資源で未来をつなぐ
~Co-Creating the future~

Vision (ビジョン: あるべき姿)

Appreciation (感謝)

感謝と品位を持ち、信頼される企業を目指します。

Recycle (リサイクル)

環境安全衛生システムを遵守し、継続的な発展に最大限努力します。

Beyond (先へ)

成長への積極的投資を行い、サーキュラーエコノミーを推進します。

Initiative (イニシアティブ: 独創力)

安全・効率の両立を実現し、リサイクル業界を先導します。

Zappy (活発な)

社員の多様性を尊重し、活気のある職場づくりに努めます。

Value (バリュー: 価値観)

- 1 安全を徹底したうえで効率を求めよう
- 2 思いやりの心で誠実に接しよう
- 3 成長を支え合い新しい取り組みをしよう
- 4 自分らしさを活かして前向きに行動しよう



検討委員会

経営理念の変遷 (昭和から平成、令和へ)

経営理念とは、創業者や経営者の基本的な考え方を利害関係者(社員、取引先、社会)に向けて示すためのものです。特に経済成長が著しい昭和期においては、経営者の強力なリーダーシップが反映され、上意下達(トップダウン)で示されてきました。

そして時代は平成から令和に代わっていくに従い、組織内での人同士のかかわり方や、社会から企業に求められるモノ・コトについても変化がみられるようになりました。人権や働きがい、コンプライアンスなどがこれまで以上に尊重されるようになり、企業の存在意義などをより具体的に表明するように、経営理念の姿も変わってきました。

そしてアビゾも創業20周年を迎えた頃、経営理念を刷新する案が検討されることになりました。

シン経営理念プロジェクトチーム

令和の時代になり、企業経営には透明性を確保すること、法令など順守義務を果たすこと、環境に有益な活動として持続可能性やSDGsなどの新たな指針が求められるようになりました。現代から未来へ、利害関係者から社会全体へと、視野の裾野が広範囲に及んでいます。

アビゾはこれからの20年に向けた新たな経営理念を策定するために「シン経営理念プロジェクトチーム」を招集しました。委員会は一般社団法人中部産業連盟の小橋川様をファシリテーターに迎え、一般社員を中心に構成されています。経営理念を考えるにあたり、社員ひとりひとりが企業の存在意義や社会的責任をより「自分事」として意識しやすくするよう、社員から経営層へ提案するボトムアップ方式としました。社員自らが考えることにより、経営理念への取り組み甲斐が生まれることなどがこの方法の利点ですが、社員の動機と会社の方向性が乖離してはなりません。整合性を担保するために、会社側として管理者をオブザーバーとして加えたプロジェクトチームとして、半年間に渡る活動を開始しました。

アビゾの経営理念とロゴマーク

経営理念は企業としての姿勢を示すのと同時に、社員としての

心得や価値観の基となっています。経営理念も時代とともにより具体的に、英語など現代用語を取り入れて幅広い世代に受け入れられやすくなっています。そして「会社の存在意義」ならびに「方針・方向性」、「人々の行動指針」という、階層や集団ごとにより強く意識する項目が設定されており、これらをパーパス、ビジョン、バリューと呼んでいます。

パーパス…目的、存在意義

「再生資源で未来をつなぐ ~Co-Creating the future~」アビゾは総合リサイクル企業としてお客様の信頼に答えています。しかし創立当初と比べるとアルミニウムの水平リサイクル、太陽光パネルのリサイクル、情報機器のリユースなど、リサイクルに関する新たなニーズも増えてきました。特に社会からの要望が高い「資源循環」については、未来への持続可能な分野として注目されています。Co-Creating the futureには、「お客様や社会とともに未来へつないでいく」という願いが込められています。

ロゴマークのモチーフになっている「C」もパーパスのCにつながっています。またCは5つのビジョンを表す5分割で構成されています。5つ目から6つ目はまだ見ぬ未来を示唆し、未来へつなげることで円になるデザインとしています。

ビジョン…方向性

パーパスを実現するために企業として堅持していく姿勢、方向性を示しています。

①感謝 (Appreciation) ②リサイクル (Recycle) ③先へ (Beyond) ④イニシアティブ (Initiative) ⑤活発な (Zappy) 5つのビジョンは会社や組織としてのモットーともいうべきものです。これらのビジョンはARBIZの頭文字から考えられています。

バリュー…(個人の) 行動指針、価値観

パーパス、ビジョンからうまれた価値観として、社員が仕事に向き合う上での心得となるものです。

企業として崇高な目的や方向性を掲げていても、個々が大切にすべき価値観を共有しなければ目的の達成は困難になってしまいます。また少子化などによる労働人口の減少は人材を確保するのが課題となっていることをふまえ、バリューには社員を大切に、お互いが支え合う姿を描いています。



会社概要

会社名	株式会社アビズ 
代表取締役	瀬田 大
本社所在地	愛知県名古屋市港区昭和町14番地の24
設立	2003年12月18日
資本金	2億7,000万円
従業員数	168名 (役員含まず、2025年12月1日時点)
業務内容	廃自動車リサイクル、産業廃棄物処理、事業用廃家電リサイクル、金属くず (製鋼原料、鋳物原料、特殊鋼くず、非鉄) のリサイクル、OA・事務機器リサイクル、プラント解体、古紙リサイクル、廃プラスチックリサイクル
敷地面積	112,117.88 m ²
工場建屋面積	63,754.59 m ²
認証取得規格	ISO9001 (品質マネジメントシステム国際規格) ISO14001 (環境マネジメントシステム国際規格) ISO/IEC27001 (情報セキュリティマネジメントシステム国際規格/コンピュータ類解体・機密文書処理とその収集運搬・計量業務に限る) ISO45001 (労働安全衛生マネジメントシステム国際規格) R2 (Responsible Recycling/電子機器の持続可能な再利用とリサイクルマネジメントシステムのガイドライン)
グループ企業	株式会社SMART

出資企業

出資企業	株式会社 ユー・エス・エス 
	代表取締役社長 瀬田 大 本社所在地 愛知県東海市新宝町507番地の20 設立 1980年10月 資本金 188億8,100万円
出資企業	株式会社エンビプロ・ホールディングス 
	代表取締役社長 佐野 文勝 本社所在地 静岡県富士宮市田中町87番地の1 設立 2010年5月 資本金 15億8,021万円

グループ企業

会社名	株式会社SMART 
代表取締役社長	佐野 拓也
本社所在地	愛知県名古屋市西区牛島町2番5号TOMITA.BLD203
設立	2019年4月25日
資本金	1億円
従業員数	40名 (役員含まず、2025年12月1日時点)
業務内容	設備・プラント処分請事業 (鉄くず・非鉄くずの販売、中古機械装置の販売、土木工事、家屋・構造物および機械装置等の解体、各業務に付帯する一切の事業)
特定建設業許可	国土交通大臣許可 (特-3) 第28150号
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ①名古屋営業所 愛知県名古屋市港区昭和町14番地の24 ②大阪支店 大阪府大阪市東淀川区西淡路1丁目1番32号 新大阪アークビル1102号室 ③東京営業所 東京都千代田区一ツ橋二丁目1番1号 如水会ビルディング5階 

沿革／事業領域

2003年12月 名古屋市港区にて「株式会社アビツ」設立

2004年2月 固形燃料 (RPF) 製造プラント稼働開始

2004年4月 スクラップシャー (ギロチン) プラント稼働開始

2004年8月 シュレッダーダストプラント稼働開始
サーマル・プラスチック比重選別プラント稼働開始
マテリアル・プラスチック比重選別プラント稼働開始

2004年9月 環境マネジメントシステム国際規格 ISO14001 認証取得

2004年11月 シュレッダープラント稼働開始
重選別プラント稼働開始
全プラント本格稼働開始
自動車リサイクル法ASR再資源化施設として大臣認定を取得

2005年12月 事業拡大に伴い、2億7,000万円に増資

2006年1月 金属探知機選別プラント (Fライン) 稼働開始

2006年9月 スクラッププレス機設置

2007年10月 情報セキュリティマネジメントシステム国際規格 ISO27001 認証取得 (コンピュータ類解体・機密文書処理とその収集運搬・計量業務に限る)

2009年4月 基板破碎プラント (基板破碎ライン) 稼働開始

2009年10月 固形燃料 (RPF) 製造プラント1号機

2009年11月 スクラップシャー (ギロチン) プラント

2009年12月 シュレッダープラント

2011年1月 愛知環境賞「名古屋市長賞」を受賞

2011年6月 小型家電再資源化認定

2011年10月 北海道支店開設
産業廃棄物収集運搬業許可 (北海道)
一般建設業許可取得

2012年4月 「製鋼用副資材の製造方法 (マイプラ)」特許取得

2013年1月 「名古屋市長賞」受賞

2013年4月 「製鋼用副資材の製造方法 (マイプラ)」特許取得

2013年5月 NEDO事業 タイでのWEEEリサイクル実証採択

2013年6月 特定建設業許可取得

2013年7月 NEDO事業 FS採択

2013年9月 FSPプラント稼働開始

2013年10月 北海道支店 千歳市へ移転

2014年10月 「製鋼用副資材の製造方法 (マイプラ)」特許取得

2015年10月 産業廃棄物処分業許可 (北海道) 倉庫登録

2015年12月 固形燃料 (RPF) 製造プラント 3号機稼働開始

2017年3月 「シュレッダーダスト再資源化技術 (サーモリアクター)」特許取得

2017年4月 OSPプラント稼働開始

2017年5月 VGMプラント稼働開始

2017年6月 労働安全衛生マネジメントシステム国際規格 ISO45001 認証取得

2017年8月 北海道支店 事業譲渡により閉店

2017年9月 DDR工場完成

2017年10月 PVパネルリサイクルプラント

2017年11月 住友商事 (株)、三井住友ファイナンス&リース (株)、SMFLみらいパートナーズ (株)、(株) SMARTと (株) アビツの5社による使用済み太陽光パネルのリユース・リサイクル事業の実現に向けた実証実験の開始

2017年12月 「諸外国での金属・自然資源等の再生資源の調達に向けた国際ルールへの対応と海外調査事業」の研究開発責任者に採択
「24年度自動車リサイクルの高度化等に資する調査・研究・実証等に係る助成事業」に採択

2018年3月 全国社会就労センター協議会から感謝状を受領

2018年4月 使用済みアルミ自動車部品の水平リサイクル実証を開始

2018年10月 経営理念、ロゴデザインの刷新
(公財) 愛知県暴力追放推進センターから感謝状を受領

2018年12月 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 認証取得

2019年2月 NEDO事業 実証終了

2019年8月 ZATO稼働開始

2019年12月 ナゴヤキャリアタイムサポーターに登録

2020年3月 住友商事 (株)、三井住友ファイナンス&リース (株)、SMFLみらいパートナーズ (株)、(株) SMARTと (株) アビツの5社による使用済み太陽光パネルのリユース・リサイクル事業の実現に向けた実証実験の開始

2020年4月 「諸外国での金属・自然資源等の再生資源の調達に向けた国際ルールへの対応と海外調査事業」の研究開発責任者に採択
「24年度自動車リサイクルの高度化等に資する調査・研究・実証等に係る助成事業」に採択

2020年6月 労働安全衛生マネジメントシステム国際規格 OHSAS18001 認証取得
R2 認証取得

2020年8月 北海道支店 事業譲渡により閉店

2020年9月 DDR工場完成

2020年10月 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 認証取得

2020年12月 NEDO事業 実証終了

2021年2月 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 認証取得

2021年8月 ZATO稼働開始

2021年12月 ナゴヤキャリアタイムサポーターに登録

2022年3月 「シュレッダーダスト再資源化技術 (サーモリアクター)」特許取得

2022年4月 OSPプラント稼働開始

2022年5月 VGMプラント稼働開始

2022年6月 労働安全衛生マネジメントシステム国際規格 ISO45001 認証取得

2022年8月 北海道支店 事業譲渡により閉店

2022年9月 DDR工場完成

2022年10月 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 認証取得

2022年12月 NEDO事業 実証終了

2023年2月 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 認証取得

2023年8月 ZATO稼働開始

2023年12月 ナゴヤキャリアタイムサポーターに登録

2024年3月 全国社会就労センター協議会から感謝状を受領

2024年4月 使用済みアルミ自動車部品の水平リサイクル実証を開始

2024年10月 経営理念、ロゴデザインの刷新
(公財) 愛知県暴力追放推進センターから感謝状を受領

2025年 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001 認証取得

事業領域

自動車のリサイクル

自動車リサイクル法に則り解体
国内資源向けの金属、海外向けパーツ回収
廃液 (オイル、クーラント)、燃料 (ガソリン、軽油) の回収



小型家電のリサイクル

小型家電大臣認定第 14 号
自治体や企業で回収された小型家電の破碎・選別・分級
鉄、プラスチック、非鉄金属の回収



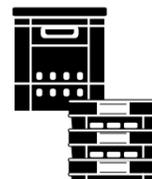
金属のリサイクル

建屋解体、産業機械の解体、選別
鉄、非鉄金属の回収



プラスチックのリサイクル

軟質プラスチックの RPF 化 (石炭代替燃料)
硬質プラスチックの燃料化 (重油代替燃料)
シュレッダーダストの製鋼副資材化
硬質プラスチックのプラスチック原料化



紙のリサイクル

段ボール、雑誌、新聞紙の製紙原料化



都市鉱山リサイクル

貴金属含有の破碎残渣、燃え殻の破碎、選別、分級
非鉄金属、貴金属の製錬原料化



アビツの特徴

敷地面積

112,117.88m²

日本有数の物づくり県である愛知県。その中心である名古屋市の工場地帯にある。

バンテリンドーム ナゴヤ (48,169m²) 2.3 個分という広大な敷地に、大小様々な処理プラントが立ち並んでいる。

また高速道路出入口からも近く、広範囲にわたりスピーディーな集荷が可能。



年間受入量

約 69,000 t



RPF原料、鉄鋼副資材原料の入荷量は年間約18,400トン。ついでシュレッダー原料が約16,500トン。社内解体の使用済自動車は約3,300トン。

製品年間出荷量

約 77,000 t

※ OEM 生産含む



鉄の出荷量、約25,000トン。鉄鋼副資材出荷量、約9,500トン。廃棄物出荷量、約2,200トン。直近のトレンドとして、マテリアル向けプラスチック原料出荷の割合は、増えてきている。また、CO₂削減、エネルギーコスト上昇により鉄鋼副資材の需要も増加。

プラント数

16 基



自動車・自販機・複合機などの複合材を、アビツの上流部である大型破碎選別プラント(シュレッダー) 破碎、風力選別を行い金属とプラスチック、ウレタンなど計量物とに選別。同様の破碎選別の技術を利用したプラントでは、プラスチックから燃料プラスチック(重油代替燃料)を製造、あるいはマテリアルリサイクル向けにプラスチック原料を製造している。中でも弊社の特徴と言えるのが、特許技術を用い、廃棄物を有効活用した鉄鋼副資材の製造プラントである。24年にはALOOPプラント、PVパネルリサイクルプラントを新設した。

収集運搬業許可

17 地域



名古屋市をはじめ、愛知県*、岐阜県*、三重県*、静岡県*、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、長野県、福井県、石川県、富山県の産業廃棄物収集運搬業の許可を取得、これらはすべて優良事業者認定を受けている。2025年には新たに神奈川県、東京都の許可を追加取得した。

* 特別管理産業廃棄物収集運搬業を取得

認証取得規格

5 認証



ISO 9001 (品質)、14001 (環境)、27001 (情報セキュリティ)、45001 (労働安全) の4つの国際マネジメント規格と、米国で広く普及しているリサイクルマネジメントのガイドラインであるR2 (電子機器の持続可能な再利用とリサイクル) の認証を取得している。これらのマネジメントシステムを活用する事により、お客様に安心を提供している。

保有車両台数

29 台

(自動車積載車両を含む)



大型車を中心に、トレーラー、クレーン付き車、アームロール車など幅広くラインナップしている。また、すべての車両において産業廃棄物収集運搬車両の登録をしている。お客様の、オーダーに応じた対応が可能。

年間休日

120 日

ゴールデンウィーク、夏季休暇、年末年始は9連休を基本とする(年間スケジュールによる)。休日出勤をした場合は、原則として振替休暇を取得する。

平均年齢

38.98 歳

産業廃棄物業界の平均年齢が42.2歳。正社員を中心に若干の若返りが図られている。



取締役事業本部長 **佐野 拓也** 対談 常務取締役 **金田 稔**

— 11月にプラスチックリサイクル工場で発生した火災の影響と、今後の見通しについてお聞かせください

佐野 再建計画についてはまだ見通しが立っていないのですが、まず被災したプラスチックリサイクル後工程の復興を急がねばなりません。現時点の構想ではRPFなども集約し、集塵を強化して粉じんを減らし、従前の工場よりも作業環境が改善できるのではとみています。リサイクルは属人的な仕事であり完全な自動化は難しいですが、重機の投入など着手できることから取り組むことを考えています。

金田 レイアウトを変更できれば、コンベアを設置することもできるけど。

佐野 アビヅも当初はSHPとJラインをコンベアでつないでいたのですが、どちらかにトラブルがあると両方を停止させなければならぬので、あえて撤去しましたよね。必要な場所までは車両等で運搬して、投入しなければならぬかもしれません。様々な方法を検討する必要がありますね。ダストなどが飛散する原料などはできるだけコンベアで搬送し、工程を密閉できて見学通路から隔離したりすることも必要だと思います。

金田 今まで設備の更新にも踏み切れなかったのが、これを機にしっかりとした工場を作りたいね。

— 循環型社会・サーキュラーエコノミーの実現に向けての2025年の取り組みはいかがでしたか

1. ALOOP～アルミ高度選別リサイクルライン

佐野 リサイクルの事業では久しぶりに継続的な利益が見込めるシステムだと手ごたえを感じています。原料の多くを欧州や米国から輸入しており、輸入品は国内集荷品と比べて相場が高いものの、コンテナなどで大量に運搬できるコストメリットがあります。

処理後の売価も処理に相応した収益につながっており、ビジネスの柱として今後も期待できます。課題は原料の確保ですが、国内市場だけでも毎年150万トンのアルミスクラップが発生しているので、国内外から集荷を増やせるよう積極的に取り組んでいきたいですね。

— ALOOPを導入してから、品質を高めるため追加した設備投資もありましたが

佐野 それでも投資対効果は確保できています。設備投資が奏功するように情報収集を綿密に行った上での判断をもとに、どれだけの収益が期待できるかを見極めがポイントになります。

僕は自分たちでコントロールできるものに軸足を置くことを重視しています。例えば（電子回路）基板の場合、重量あたりの評価額は製錬会社側のサンプリングに依存しています。対してアルミの中間処理だとアビヅ側が交渉を有利に進める余地があります。アルミのリサイクルは、鉄以上に事前の選別が付加価値に大きく影響するので、中間処理業者の強みを生かせる商材となっています。この点でアルミに着目したのは良い判断だったと思います。応用分野についても、自動車や航空機など、軽量化に貢献できるアルミに対する需要は今後も増えていくと業界では分析しています。逆に飲料容器に関してはペットボトルに押されているようですが、いずれにしてもALOOPIはまだまだ伸びると思います。

金田 新規事業については、基板破碎（事業）を始めた頃もずいぶん斬新な取り組みだというインパクトがあった。金・銀・銅ってやっぱり資源価値が高いので、評価が上がってくるのが楽しみのようになっていたね。

佐野 そこまでではないですが、アルミもずいぶん上がりしましたよね。まだまだ相場が上下することはあるでしょうけど、それほど下落することはないのではないのでしょうか。ただ価値が上がりすぎると（リサイクル材として）採用されにくくなってしまいうので、使われやすく、集まりやすいほどほどのところで落ち着くといいですね。

2. PC等リユース

金田 オンサイト処理などのニーズは潜在的にあると思うので、もう少し宣伝して知名度を上げたいね。

佐野 そうですね。先日は自治体からのギガスクール端末処分に関する大型案件の落札実績もありましたので、このような成功モデルが続いていくといいですね。それには販売方法もB to Bだけでなく、一般ユーザー向けの販路開拓など、裾野を広げた活動が強みになるかもしれませんね。リサイクルにも鉄鋼減産の影響がありますが、それを補うものとしてリユース事業にも期待しています。

3. PV（太陽光発電）パネルリサイクル

佐野 （普及してからのライフサイクルを終えて）大量に廃棄されるのが2030年以降とみられているので、現時点では様々な試行錯誤を重ねて、リサイクルの手法を確立する段階と捉え静観しています。いずれにしても大量廃棄は目に見えているので、積極的に受け入れる準備を進めています。またアビヅができることを周知しておくこともこの数年間でやるべきことだと思います。ALOOPIに比べると処理量は限られますが、設備投資額も少なく、リサイクル率の向上を求めらるのであればリサイクルハンマー、処理コストを抑えたい場合はシュレッダーとお客様のニーズに応じて対応できます。PVパネルはフレームなどの資源化に加え、ガラス部分も建築資材にリサイクルされています。

4. 自動車

佐野 同じくガラスについては、用途は限定的ですが、自動車のガラスも一部が自動車向けにリサイクルされています。自動車メーカーはCar to Carリサイクルをアピールできるし、当社のシュレッダー工程への影響も減らすことができます。折しもEU使用済み自動車規則案の暫定合意を経て、今後段階的に自動車に関するリサイクル目標が引き上げられ、国内市場でも間違いなく再生利用が促進されます。リサイクル率向上を達成しないと欧州市場から締め出されてしまうので、日本も追従せざるを得ない状況になっていくでしょう。

— リサイクル業界内での競争が激化しています。その要因と課題にはどのようなことがあるのでしょうか

佐野 日本に限ったことではありませんが、海外から国内市場に参入する上では、届出さえ行ってしまうと法的に問題が無く、この点では規制が緩いと感じます。資源が乏しい国内でリサイクル材の活用を進める動きがある中で、資源を輸出するのが前提となっている事業者に許可を与えることは問題です。独資では事業化させない、労働に関する国内法令に準拠させるなど、許可に一



自分たちでコントロールできるものに軸足を置くことを重視しています。



これを機にしっかりとしたものを作りたいね。

定の条件を設けることが必要だと思います。もちろん国外事業者を排除するのではなく、既存事業者との健全な競争の上で、国内資源循環を進めるための制度設計が必要ではないでしょうか。今後リサイクル率や再生材の活用などの制約が設けられる可能性があります。規制が強すぎると製造業が停滞しかねないのでは、景気が上向いてきた段階で法整備などが進むのではないのでしょうか。むしろ我々にとって最も脅威となるのは、他業種や国外からの参入ではなく、国内メーカーによる資源の囲い込みかもしれません。サーキュラーエコノミーが進むと、コストを下げるためにグループ内でリサイクルを強めることが考えられるからです。

さらに最近衝撃的だったのは、軽自動車までもが輸出され始めたことですね。これまで解体車の入荷量減少については、新車減産など様々な要因があったのですが、今回の場合は中古車流通の構造自体が変わっているのです。こうなると資源としての中古車仕入れについては見直さないとはいけません。

金田 この20年で解体車が4割ほど減っているのが、このペースだとかなり厳しくなるね。

佐野 アビヅは自動車以外にも様々なリサイクル事業を検討し、挑戦し続けてきました。そして時代の流れに乗り、逆行しないこと、自分たちの役割を意識し、その分野に注力することを心がけています。ひょっとするとアビヅもすべてのプラントがALOOPIの前処理になることもあり得ます。そうするとALOOPIを増設してアルミの生産体制を拡充するなど、転換のチャンスはあると思います。ここで踏ん張ってどれだけの物を集められる仕組みを構築できるのか。リサイクル品の中から価値が生まれるもの、中間処理が貢献できる商材として、以前は自動車だったのですが、これからはアルミに変わっていくのではないのでしょうか。2026年は勝負の年になりそうですね。

— 経営理念が一変されました。これからのアビヅや社員にどのようなことを期待していますか

佐野 時代の流れに乗り、新しいことにチャレンジできるのがアビヅの長所です。アビヅに求められる役割を意識し、社会からのニーズに応えることが重要です。それには社内の雰囲気づくりも大切です。自然に挨拶ができ、お客様にもよりよい印象を与えられるようにしたいですね。

金田 ALOOPがまさにそうですが、アビヅは事業を行うこと自体、資源循環や温暖化ガス削減に貢献できる会社です。技術的には他に負けない会社ですので、研究開発など新しいことに挑戦し、提案ができる人にとっては、成長できるチャンスがあります。経営理念やロゴマークを刷新し、会社も生まれ変わりました。この重みを感じて欲しいです。

今年度トピックス

アルミの水平リサイクル

日本国内では、アルミのリサイクルが注目されています。まず1つがアルミ製品の原料となる地金製造における省エネルギー性にあります。地金を天然の鉱石（ボーキサイト）から製錬するのに比べ、廃材等からリサイクルするのにかかるエネルギーはおよそ3%とされています。さらに現在では、国内でアルミ製錬が行われていないため、リサイクル材以外を原料とする場合、すべて輸入に頼らなければなりません。国内での資源循環を進める動きが、アルミリサイクルへの追い風となっています。

ただしアルミリサイクルには課題も残されています。自動車等で使用されるアルミ部品は、展伸材、鋳物、鍛造材など、製造方法や合金種類が多岐に亘っています。従来の選別方法では合金種類ごとの選別が難しく、リサイクルした材料はリサイクルする前と比べて低品位な「カスケードリサイクル」となっていました。

この課題を解決すべく、アビゾでは自動車リサイクル高度化財団（J-FAR）の助成を受け、新たなアルミスクラップの高度選別ラインを導入し、「ALOOP」と名付けました。この設備は、X線透過選別装置（XRT）に加え、国内初導入のレーザー誘起ブレイクダウン分光法選別装置（LIBS）を導入しています。XRTはX線透過率の違いにより、金属に付着している異素材の部品などを選別します。LIBSは対象物にレーザーを照射して、元素組成を分析する選別方法です。これらの最先端技術を導入することで、使用済み製品を原料に戻し、再び同じ種類の製品へと再生する「水平リサイクル」の実現に貢献しています。



情報機器のリユース

国内消費におけるリユース市場規模は年々拡大しています。23年に3兆1,227億円を記録した市場規模は、30年には4兆円に達することが見込まれています。リユース市場全体における情報機器（PCおよび周辺機器、家電等）の割合は、市場全体の約7.5%~10%程度を占めており、EC・フリマアプリ等の成長に伴い、市場全体が拡大傾向にあります。（環境省環境再生・資源環境局総務課リサイクル推進室「令和6年度リユース市場規模調査報告書」より）

情報機器のリユースには、廃棄物の削減と温暖化ガス排出抑制を両立できる再生手段としてニーズが高まっていますが、機器に含まれるデータの漏えいなど課題も多く含んでいます。これまでアビゾでは使用済みPC等は、情報を含む記憶媒体（HDDやSSDなど）のみを取り出した後物理的に破壊し、本体やパーツ等はリユース品として出荷していましたが、タブレット端末など記憶媒体を分離できないモデルはセキュリティを重視したためリユースしていませんでした。

しかし最近ではタブレット端末の性能がPC並みに向上し、利用数が大幅に増加したことで、企業や学校等から不要となった端末の回収が増加しています。文部科学省が全国で進めている学校教育のDX化「ギガスクール構想」などにおいては、ソフトウェアならびにハードウェアの更新に伴い、PC・タブレット等使用済み端末の廃棄が大量に発生しています。これらはリユース市場に提供できる良質なデバイスとしての期待が高まっています。そこでデータを安全に消去できる専用のソフトウェアおよび機器を導入し、リサイクルより環境負荷の少ないリユースも選択できるよう処理のスキームを拡大し、資源循環に取り組んでいます。



情報のオンサイト破壊

PCなど情報機器に保存されている個人情報等の漏えいが社会問題となっています。社外への情報漏えいに不安を抱えるお客様のニーズに対応すべく、専用車両にシュレッダー（破碎機）を積載し、データを含む機器等のオンサイト（現地）破壊を行っています。シュレッダーは光ディスクや磁気テープなどの記録メディアの他、PCのハードディスク、携帯情報端末などの破壊も可能で、記憶媒体の物理破壊に関する国際規格にも準じています。お客様の敷地外へ持ち出すことなく現地で破壊することにより、情報漏えいリスクをなくします。



太陽光（PV）パネルリサイクル

2011年に発生した東日本大震災での福島第一原子力発電所の事故を契機に、代替エネルギーとして太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーへの転換機運が高まりました。さらに2012年に開始したFIT制度の導入などの税制優遇や補助金等の措置が後押しする形で、PVパネルの設置が一気に増えました。PVパネルの寿命は概ね20~30年とされており、一斉に普及したパネルが今後2030年以降、大量に廃棄されることが見込まれています。

アビゾでは、従来の破碎・選別による資源化に加え、ガラス、バックシート、フレームを分別し、パーツ毎にリサイクルする専用のPVリサイクル工場を新たに設けました。またリサ

イクル装置に加え、外観や発電量の劣化を検証する検査機器を導入し、PVパネルのリユースにも対応できるようにしています。



見学用カート

廃棄物処理法（※）により、アビゾのお客様（排出事業者）には廃棄物を適正に処理する責任が求められています。法律に従い、各自治体では条例等で、排出事業者が処理事業者に処理を委託した廃棄物が適正に処理されていることを現地で確認することが推奨されています。アビゾなど処理事業者においても、日々お客様による現地視察が行われています。しかしアビゾのリサイクル工場は敷地面積112,000㎡を超えるため、夏季などの徒歩による視察はお客様にとっても負担となっています。アビゾでは見学用カートを導入し、お客様が安全に工場を視察できるよう準備しています（3名様以下のグループに限ります）。

（※）廃棄物の処理及び清掃に関する法律



当社内すべての事業活動は、安全な職場づくりの上に成り立っています。

基本的な考え方

労働安全衛生に関するリスクおよび機会を明確にし、リスクを低減させるための様々な活動を行います。従業員が心身ともに安全かつ健康に業務を行えるよう、より快適な職場づくりを目指します。

ISO45001 認証

事業を行う上で最も優先しなければならないのは安全衛生ですが、同時に作業効率も重視しなければなりません。安全と効率を両立させるためには、様々な作業に付随する危険源およびリスクに基づく管理が必要です。ISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）は、作業に潜むリスクを、災害が発生する前に評価することで低減するためのしくみをつくります。またISO45001は会社や管理者だけでなく、従業員全員が取り組むことで、災害の無い職場を実現することができます。

消火・避難訓練

アビツの操業に大きく影響するリスクが火災です。年々リチウムイオン電池やスプレー缶が原因と考えられる火災が世界的に増加しており、国内のリサイクル工場においても火災の発生がニュースなどで報じられます。もちろん当社への処理を委託していただいているお客様に対しても、分別についての説明を丁寧に行なう必要がありますが、当社内においても、職場ごとに発生するおそれのある火災を想定した消火訓練を定期的に行なっています。また当社は名古屋港湾に面していることから、12月には津波を想定した避難訓練を実施するとともに、災害備蓄品の準備や近隣企業との連携などの防災対策を実施しています。



安全衛生委員会

安全衛生委員会は従業員の「安全」と「衛生」を確保する役割を担っています。毎月1回開催される委員会では、従業員に必要な情報を適時に提供すること、会社が意思決定を行う前に従業員の意見を聴取すること、法令で定められた事項など様々な事案を審議しています。当社の委員会は取締役および管理職、一般社員が同数で構成されており、働く人の多様化が進む中で従業員の命を守るための重要な活動を行っています。

安全パトロール

安全衛生委員会のメンバーが、チームごとに各職場を月に2回パトロールする活動です。毎月テーマを決め、作業員ならびにお客様の視点に立ったパトロールを実施、危険箇所や不安全行動、作業場の改善などのアドバイスをを行い、職場の安全確保に寄与しています。



環境整備活動

近年では労働者の多様性が広がり、年齢・性別・体力・障がいの有無など様々な人材が当社で働いています。また見学などでご来社された方に安心して工場を視察して頂けるよう、安全衛生委員会の指導のもと、職場の整備を進めています。歩行帯の整備は、社員やお客様が広い工場内を安全に通行できること、非常時は迅速に避難できることを目的としています。また工場内の共有スペースを中心に清掃活動をおこなう重点環境整備活動を毎朝15分間、全部署から参加して実施しています。これにより皆が安全の空気に満ちた職場環境を意識できるように努めています。

私たちの安全宣言

社員の安全意識を高めるべく、職場ごとに「私たちの安全宣言」を決め、重点的な注意喚起を行っています。

特別教育

労働安全衛生法に基づき、特定の危険・有害業務に作業従事者から従事させる場合、専門的な安全衛生教育を行うことが必要です。アビツでは有資格者が講師となり、法で定める内容での教育を随時実施しています。



熱中症対策

労働安全衛生規則の改正により、職場における熱中症対策が義務化されました。特定条件の下で一定時間作業を行う労働者が対象となり、熱中症に関する体調報告体制の整備、緊急時の対応手順の策定などが必要となります。アビツでは社外講師を招き、熱中症の注意点、適切な水分補給などを学びました。



社内勉強会

受託品の取扱い方法、品質管理のポイントなど、社員の知識向上を目的としたテーマ毎の様々な勉強会を随時実施しています。他部署が主催する勉強会に参加することにより、相互理解やコミュニケーションの場にもなっています。



環境への取り組み

環境へ配慮した事業活動により、循環型社会に貢献します。

基本的な考え方

次世代につなげる事業活動を継続するためには、地球温暖化対策、エネルギー問題など環境への配慮が欠かせません。SDGs 目標との関連も深い取り組みです。



ISO14001、R2

地球温暖化や気候変動が深刻化している中、環境への対応はアビツだけでなく地球規模の課題となっています。各企業における事業活動の環境負荷を低減させるのに有効なのが環境マネジメントシステムに基づく管理といえます。ISO14001では環境リスクに基づき、継続的に環境影響を低減させるのと同時に、社員の環境意識を高めます。

R2は電気・電子機器を対象としたグローバルな資源循環の取り組みを強めるとともに、個人情報などセキュリティ強化に貢献します。

デジタコ

トラックに搭載されているデジタコとは、正式名称を「デジタル式運行記録計」といい、ドライバーの運転状況を記録する装置です。運転の加減速やアイドリング状態など、環境に配慮した運転を監視するとともに、適正な休憩時間の確保など、ドライバーの働き方を見守っています。当社の運搬車両はすべてデジタコを導入しています。

廃棄物の排出抑制

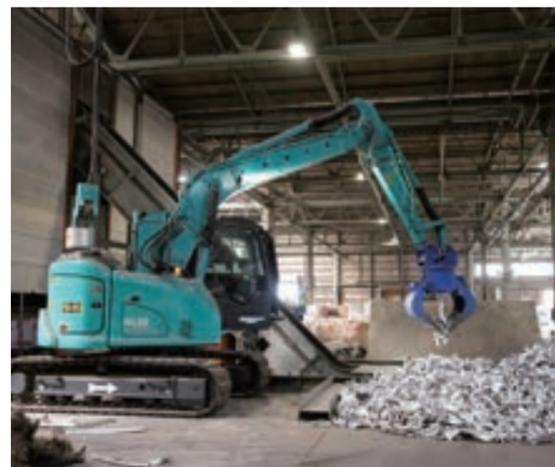
自動車、複合機等をはじめとする廃棄物の分解、分離、選別による再資源化を徹底し、廃棄物の発生を抑えています。また当社の事業活動から発生したごみも分別回収し、社内で製紙原料や固形燃料（RPF）としてリサイクルされています。

リサイクル率の向上

2024年度にアビツに入荷した物品69,000tのうち、実に97%以上をリサイクル（※）しています。将来に向けても資源循環への要望は高く、Car to Carリサイクル、マテリアル化の促進、リユース拡大などに取り組み、リサイクル業界を先導していきます。（※熱回収を含む）

フォークリフト、重機の電動化

2025年に納車したフォークリフト8台すべてを電動車両とする他、GX建機などの電動式重機の導入も進めています。電動化により温暖化ガス排出削減や作業環境改善に貢献しています。



地球温暖化対策計画書

名古屋市では、事業活動における自主的な地球温暖化対策の促進を図ることを目的として、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例（環境保全条例）に基づき、温室効果ガスの排出量が多い工場・事業場（工場、オフィス、店舗などの事業所）を対象に、地球温暖化対策計画書等の作成・届出・公表等を義務付けています。3年間の計画立案、実施状況を毎年度報告し、ホームページで公表しています。

構内緑化

2025年も工場内の緑化率を向上させるため、工場の壁面や駐車場、歩行通路の緑化を拡大しました。



低公害車導入

アビツでは、営業車7台をすべてハイブリッド、EVなどのエコカーとし、運搬に使用する車両についても低公害車を導入することで環境に配慮しています。またご来社いただいたお客様にご利用いただけるEV専用充電ステーションも設置しています。



社会貢献

事業活動の範囲で行う社会貢献活動に継続的に取り組みます。

基本的な考え方

これまで培ってきた経験・知識や、現有設備を活用し、次世代につながる社会貢献活動に取り組んでいます。



名古屋市とのパートナーシップ事業

①名古屋市ブランドパートナー

日本の都市特性評価2024（森記念財団）で合計スコアランキング全国2位であり、市民の95.7%が「住みやすい」と回答していますが、イメージがないという調査結果がでています。市民の住みやすさや働きやすさ、観光や投資の対象として都市の魅力度を向上させるためのプロモーション展開として、名古屋市では「やさし、あたらし、大名古屋」をコンセプトにイメージ戦略を進めています。市では名古屋の魅力や価値を発信する企業や団体を「ブランドパートナー」とし、アビヅもパートナー登録をしています。



②なごや環境大学共育講座

「環境首都なごや」そして「持続可能な地域社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目的とするのが「なごや環境大学」です。2005年の開学から20年となり、現在では500を超える団体が連携しています。アビヅは近隣企業との共同開催による共育講座「なごやリサイクル探検隊」を定期的に関催し、市民が環境や資源循環について興味をもつきっかけづくりに貢献しています。



③ナゴヤキャリアタイムサポーター

実社会で活躍する本物のヒト・モノ・コトとの出会いを通じて、自分たちの興味や可能性に気づき、時代と共に多様化する選択肢の中から、子どもたちが自ら考えていく力をつけていくのが、名古屋市が支援するキャリア教育です。

アビヅは名古屋市教育委員会のキャリア教育プログラムに賛同し、教育イベント「ミライトラベルDAY」や、学校からの依頼に応じた出前授業に参加しています。



④見学受入、イベント出展

近年は人々の環境への関心が高まっていますが、リサイクルについては各事業者で様々な取り組みを行っており、どのような方法で資源化するのかわかりません。アビヅでは名古屋市内および近隣の企業ならびに一般の方の見学のお申し込みにも対応しています。また各種展示会への出展や、学生・生徒向けの集合教育にも参加する機会が増えています。

2025年はアビヅが取り組むリサイクルについて各メディアで紹介されたことで、認知度向上の機会に恵まれました。



社会就労事業振興

多様な働き方を進めていく上で、仕事のしやすさや働きがいの改善は、各企業の課題の中でウェイトを増えています。アビヅのリサイクル現場においても、多くの障がい者の方々に支えられています。工場内トイレのバリアフリー化や休憩室など、職場の環境を改善したことに対し、全国社会就労センター協議会様から感謝状をいただきました。



地域防災協力

地震や津波などの大規模災害への備えは、企業でも家庭でも常におこななければなりません。アビヅでも災害備蓄や訓練など、災害に備えています。災害発生時には、地域で「共助」できるよう、東築地学区防災安心まちづくり委員会との間で、「大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書」を締結し、防災備品の提供や車両・重機の使用など地域への支援協力を行います。



地域清掃活動

1972年6月5日からスウェーデンのストックホルムで開催された「国際人間環境会議」を記念し、6月5日を世界環境デーとして、個人・団体ともに環境を啓発する様々な行事などが催されています。アビヅが工場を置く港区昭和町では、町内企業が参加する連絡会を設け、相互の連携を図っています。毎年の環境デーを「昭和町グリーンの日」と題し、企業合同での清掃活動を行っています。一斉清掃により自社の周辺環境を知ること、また地域共助の意識醸成にも貢献します。



社会貢献

高校生インターンシップ、中学生職場体験

学校卒業後の進路が多様化しており、可能性が広がっている反面、自分がどんな仕事に向いているのかを発見するにあたっては、キャリア教育の実践が重要といわれます。学生・生徒の進路選択を支援する目的で、アビヅでも中学生、高校生の職場体験を受け入れています。実際にリサイクル現場を体験することで、資源循環の大切さ、作業の上でのリスクや安全意識などを学ぶ機会を提供しています。



フードバンクへの食品提供

災害備蓄品のローリングストック活用の一環として、賞味期限に余裕がある食品を、困窮者や被災者支援の目的で食品を無償提供する認定NPO法人に寄付しました。



災害地支援

物資の提供や、地域からの協力要請に応じます



なごや環境大学共育講座

一般の方を対象に、リサイクルや資源循環の講座を実施します



学校等への出前授業

授業の一環で、小・中・高等学校での出前授業を実施しました。



地域清掃

自社周辺の清掃は、周辺環境を知る一歩になります

人的資本

従業員満足度の向上は、採用にもつながります。

基本的な考え方

従業員の満足度向上および福利厚生の充足は、コンプライアンス達成においても重要度が増してきています。力量向上はもとより、個人のさらなるレベルアップを達成するための取り組みを行っています。

従業員満足度調査

毎年4月、「仕事内容」、「職場管理」、「職場の連帯感」、「業務管理」、「企業風土」、「将来性」の6分野にわたる従業員満足度調査を実施しています。この調査は外部機関に集計を依頼し回答者の匿名性は確保されているため、従業員の貴重な意見を回収することができます。また、調査結果と自由記述の意見に対して、従業員への説明会を開催し、社内課題解決に前向きに取り組んでいます。

従業員フォローアップ面談

新入社員や中堅社員など入社後一定期間勤務した社員を対象に、人事課とCSR推進課のメンバーによるフォローアップ面談を実施しています。面談の目的は、入社後間もない期間における「聞きたいけど聞きにくい」、「誰に相談するのがわからない」といった不安を解消するために行い、新入社員にありがちな思い込みや勘違いなどの修正にも役立てています。また従業員満足度調査と同様に、働きがいやチームワーク、潜在的な不満などについてフォローアップし、離職率低減にも寄与しています。

待遇改善、柔軟な働き方の実現

毎年の定期昇給を実施し、10月からは1万円のベースアップを実施しました。定期昇給率は5.16%と、大手企業と遜色のないレベルを達成しています。

育児・介護休業法の改正を受け、在宅勤務制度、養育両立支援休暇制度を導入し、柔軟な働き方改革を行っています。

これらは親会社である株式会社ユー・エス・エスの制度を基準とし、業界水準以上の待遇を実現しています。

求人・採用活動

学生や生徒の卒業後のキャリアが多様化している中、リアル（本物）な体験が職業選択の可能性を高めています。アビヅでは工場見学や職場体験などインターン活動を通じて、各学校からの採用拡大にも力を入れています。

リサイクルという、一般の方には触れる機会が少ない事業への認知を広げるため、広報活動においてもSNSなど多数のメディアを活用し、特に次世代を担う若年層へアピールする機会を増やしています。

eラーニングの活用

社員が自身のスケジュールに合わせて学習できるeラーニング制度を導入しており、2,000を超えるプログラムの中から学びたい講座が受講できます。各講座はPCだけでなく、社員に貸与されているスマートフォンからも受講できるため、スキマ時間や休日などを活用し、自身のスキルアップや資格取得に役立てています。



従業員表彰

永年勤続、優秀提案、安全標語など優れた活動に対し、全体朝礼などでの表彰を随時行っています。



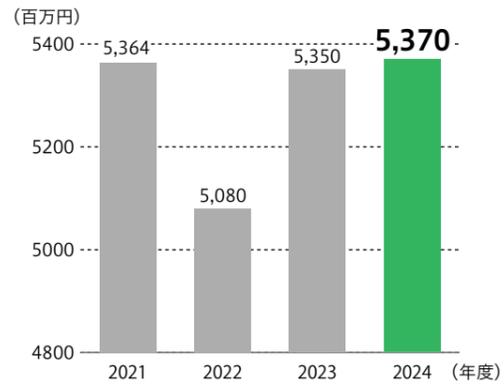
従業員コミュニケーション

新年会や納涼祭、ボーリング大会など従業員相互のコミュニケーションを醸成するイベントを定期的に開催しています。

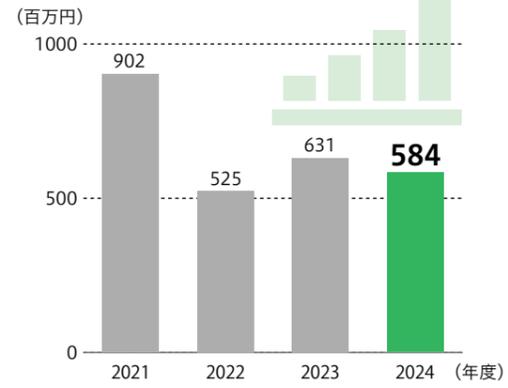


数字で見るアビツ

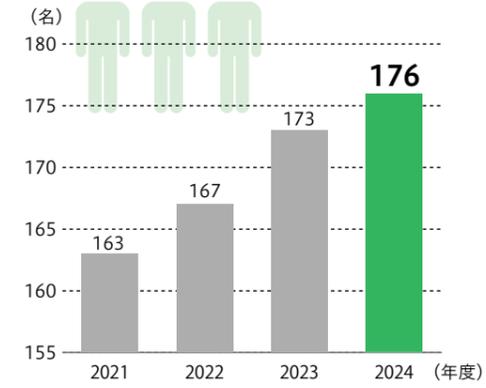
売上高



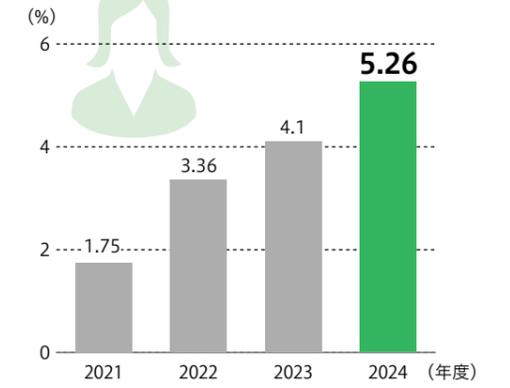
経常利益



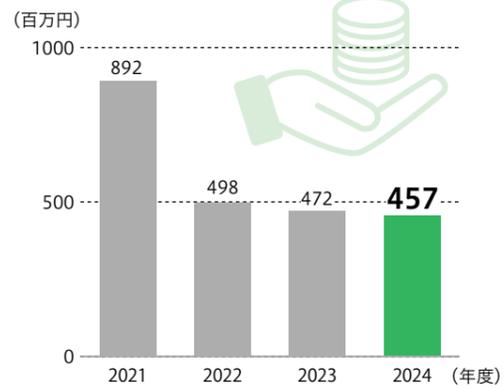
従業員数



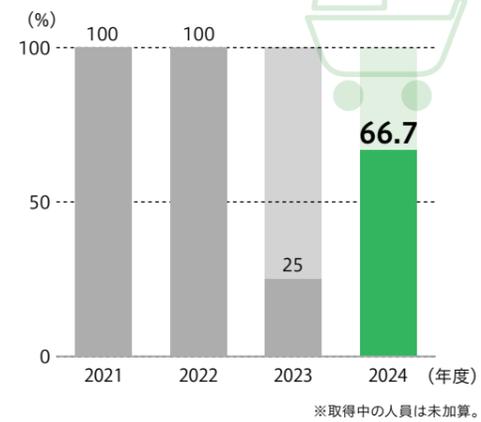
女性役職者登用率



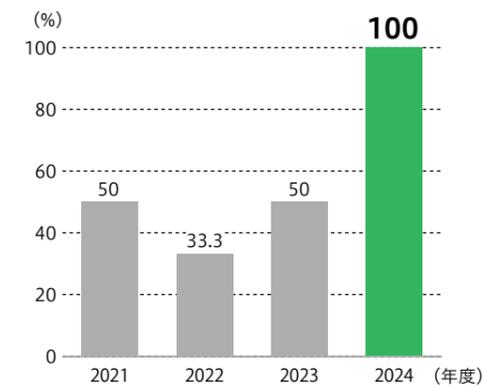
営業利益



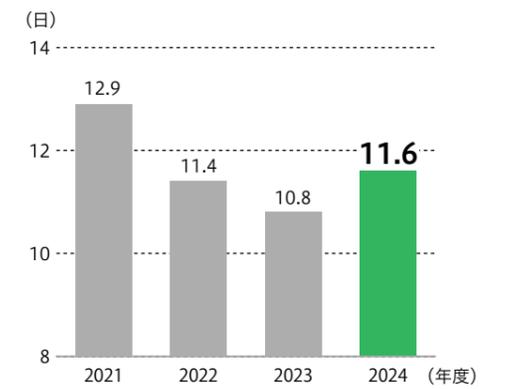
育児休業取得復職率



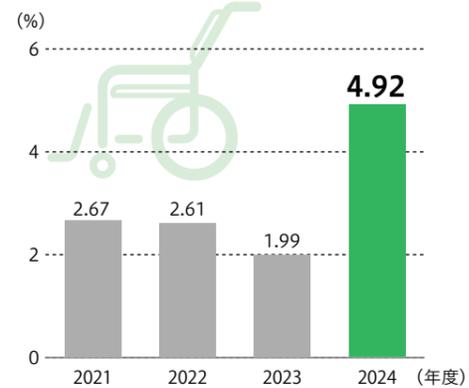
男性育児休暇取得率



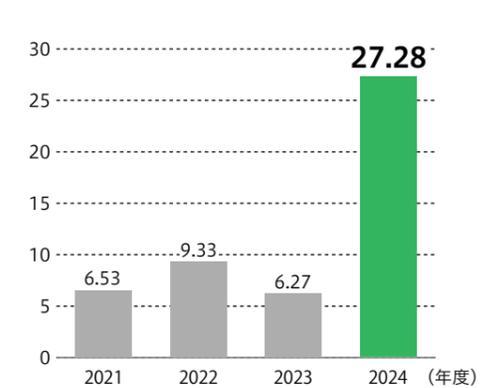
有休休暇平均取得日数



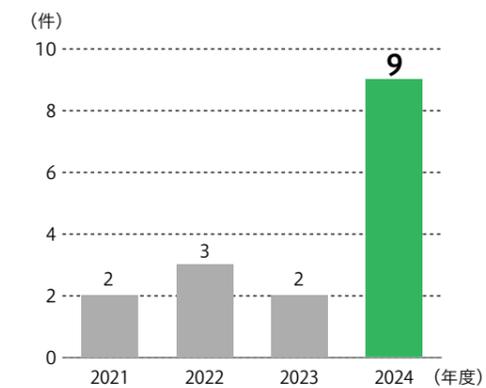
障がい者雇用率



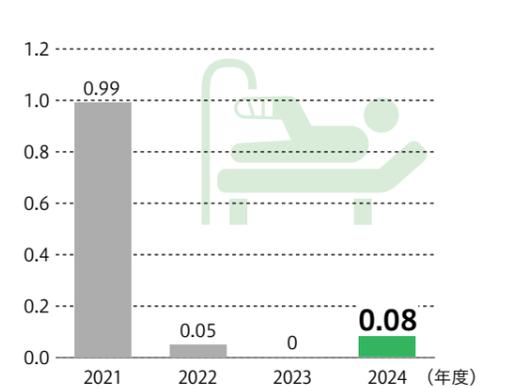
休業災害度数率



労働災害件数



休業災害強度率





4月

台湾でマグニチュード7.2の地震が発生し、1000人以上が負傷
 US スチール株主総会が行われ、停滞していた日本製鉄による買収計画が承認される
 大谷翔平氏が日本人選手の最多ホームラン数となる176本目に到達

6月

6月12日、全国初・今年初の猛暑日となる福島県伊達市で35.2度を記録
 黒柳徹子の自伝小説をアニメ化した「窓ぎわのトットちゃん」が仏アマシー・アニメ映画賞において、特別賞を受賞。
 国際大会・ネーションズリーグで女子バレー日本代表が初の銀メダルを獲得

8月

アフリカのコンゴ民主共和国を中心に、「エムボックス」(サル痘)の感染者が急増する。致死率の高い変異株(クレード1)が大規模流行
 京都国際高校が夏の甲子園で初優勝。京都勢にとって1956年以来となる

10月

日本の被爆者団体がノーベル平和賞を授賞
 法定最低賃金が引き上げられ、16都道府県で時給1000円超えに
 袴田事件の再審裁判で検察が控訴断念。1980年に確定した死刑判決が取り消され無罪判決が言い渡される

12月

マイナ保険証への統一を目指し、紙の健康保険証の新規発行が停止
 日本語コンテンツが好調で、日本国内におけるNetflixの会員数が1000万人突破
 「年収の壁」の引き上げやガソリン暫定税率の廃止など、3党が合意

2月

就学支援金を支給する所得制限を公立・私立問わず撤廃し、高校授業料の無償化に
 日本の出生数が72万988人で過去最少を更新
 2026年開催のアジア・アジアパラ競技大会のアンバサダーに松平健氏が就任

4

5

6

7

8

9

10

11

12

2025年1

2

3

2030年ごろの実用化を目指し、新たな歯を生やす薬の臨床試験が開始。
 近年では最大規模となる太陽フレアの影響で磁気嵐が発生し、北海道でもオーロラを観測
 ダルビッシュ有が、日本人3人目となる日米通算200勝目を挙げる

5月

日経平均株価やTOPIXの最高値が更新。一方で同月内に大幅な下落もあり、株価の乱高下が目立つ
 パリオリンピック開催。総合馬術団体では92年ぶりに、陸上やり投げなどでは初メダルを取得
 新紙幣の発行と流通がスタート

7月

自民党と立憲民主党で代表選挙が行われる。自民党では最多となる9名が立候補し石破茂氏が選出され、立憲民主党は野田佳彦氏が新代表に就任
 パラリンピックで小田凱人選手が世界ランク1位のイギリス選手を破り金メダルを獲得

9月

スマホや電子機器を使用しながらの「スマホながら運転」や「飲酒運転」が、自転車も厳罰化
 フリーランス保護のための取引明確化・報酬支払いの義務化
 横浜 DeNA が福岡ソフトバンクホークスを破り、26年ぶりとなる日本一に

11月

箱根駅伝で、青山学院大学が2年連続・8度目の総合優勝。昨年樹立した大会新記録を上書きする
 宮崎県海岸沿いの日向灘地域を震源にM6.6地震が発生するものの、南海トラフ地震との関連性は低いとされる
 日本航空が中部ーホノルル線など増便を決定

1月

「モンスターハンター」の新作が発売3日で800万セールスを記録し大ヒット
 日本人宇宙飛行士大西卓哉氏を載せた米民間宇宙船クルードラゴン10号機が打ち上げられる
 愛知県名古屋市と豊橋市を結ぶ、国道23号名豊道路の未開通区間「蒲郡バイパス」が開通
 カリフォルニア州で大規模な山火事、10万人以上が避難(1月10日前後)市街地を含む14万平方キロメートル(山手線の内側の面積の2倍)が焼失

3月

Nibbler ニブラー

解体、選別作業を行う。大きな体の割に細かい仕事が得意。必要な部品だけをついばみ解体してゆく様は人々を魅了する。



Lift リフト

原料の荷下ろし、回収原料の移動、製品出荷作業を行う。場内を縦横無尽に走り回る一番の働き者であり、一番使用されている。



Cutter カッター

切断作業を行う。大きなハサミで部品をザクザク切り刻むダイナミックな仕事を得意としている。



ARBIZで 活躍する 重機たち



Grapple グラッブル

荷下ろしや積み込み作業、プラントに投入を行う。解体された部品をどんどん積み込む作業を地道にこなす。

Magnet マグネット

鉄製品の荷下ろしや出荷作業を行う。圧倒的なパワーで金属材料を選別しながら確実に積み込んでゆく。



ARBIZ
Co CREATING THE FUTURE
— 再生資源で未来をつなく —

〒455-0026 愛知県名古屋市港区昭和町14-24
TEL/052-619-6600
<https://www.arbiz.co.jp>